

# 森嶋外『文づかひ』にみる 二つのポロネーズ 元国立音楽大学准教授 江崎公子

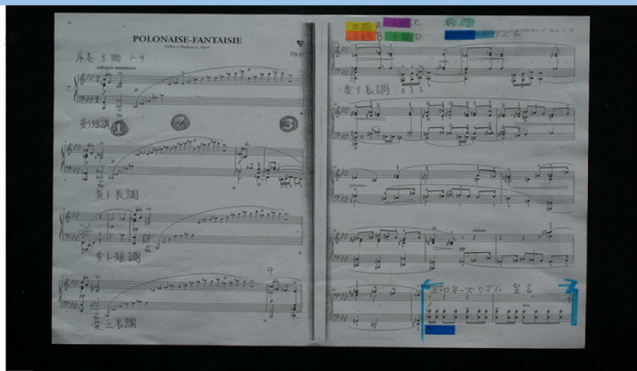
はじめに

この発表は、森嶋外『文づかひ』の作品に現れる二つのポロネーズ、宮廷舞踏とピアノ曲に注目し、C.F.ショパンの〈Polonaise-Fantaisie〉op.61がイダが弾いたピアノ曲であろうという仮説を検証し、さらにその特性である二面性と鬱屈とした不安という情緒を手掛かりに『文づかひ』の新たな解釈を試みるものである。

1月半ばの宮廷舞踏会

ポロネーズ 図版 Klamm/Klambach von der Tanzkunst Leipzig 1892 S.114

森嶋外が「みな首飾したことを喜ぶたのぞき」と述べた王室の舞踏会は次のように始まる  
正統広間の上のほうに座すき玉ひて國々の公使、また夫人などこれ圓むとき、  
舞のかけは華美なる舞踏、麗しのマイニンゲン美人を舞、つづいて舞踏  
の儀引致を召したる妃にならびしマイニンゲンの公子なりき。麗かに玉手ば  
かりの舞のどりをほはるとき、妃は悪しきしつきたる椅子に降りて、公使夫人  
たちを向におらせたまへば、國王向かひの儀なる舞踏のかけへうつり玉  
ひぬ。  
このときまことの真意はにほひて、舞客たちこめたる中樂のせまきとをきき、  
いと奇みにめりありきを見れば、おほは少學士宮の妻女あの手したるなり。  
(中略) 午夜の時計はがらんに鳴りて、はや舞踏のかけとなり、妃はおほとの  
ごり玉ふかきおきりなれば、イダ姫あわただしく舞をたちて



## 仮説 典拠 「空想の曲」と Polonaise-Fantaisie Op.61

典拠1は、『文づかひ』文中に「さきに珍し空想の曲かなでし時」とある。  
小林がイダ姫に伴われて、塔の頂へ登り、腰かけた時のイダ姫の様子を述べている箇所である。「さきに珍し空想の曲」の「空想」をドイツ語で言い換えるとして Fantaisie である。Fantaisie は音楽ジャンルの一つであり、あるいは曲名としても使われる、  
典拠2は、イダの父ピュロオ伯の演奏直後の言葉である。「物くるほしきイダが当座の曲はいつものことにて珍しからねど、君はさこそ驚きたまひめけ」と小林に会釈した。このころ練習している曲が激しい曲で驚いたであろうと、小林の驚きを察めている。  
典拠3、4はイダの演奏の描写と (Polonaise-Fantaisie) Op.61の楽譜上で見られる類似点である。  
冒頭のおもむりに打つとは楽譜①の力強い和音であり、木端タステン部分で楽譜②に相当する。また刀槍  
齊くなるときは強烈なリズムで宣言される楽譜①の青部分のポロネーズリズムで、ここから4つの主題が始まる。

## ザクセン宮廷

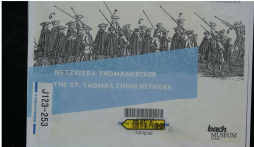
嶋外が滞在したザクセンは、すでにビスマルクによって「ドイツ帝国」となっていたが、この段階ではまだドイツ諸邦の王族・貴族制度を打破するものではない。王族・貴族制度では祝祭の場を通しての宮廷文化誇示に重要な政治的価値を見いだしていた。  
ドレスデンの文化・藝術の興隆期はザクセン選帝侯フリードリッヒ・アウグスト1世、2世 (1694-1763) の時代である。さらにポーランドの古領支配によってポーランド王も兼ね三十年戦争で疲弊していたドイツはポーランド文化を吸収した。銀山・錫山の開発を契機に桁外れに贅沢な時代を創り出し、教会の建築・宮廷・劇場・庭園・装飾・食器等やオペラや舞踏会、特に舞踏は祝祭を賛美するといわれるほど熱中した。音楽に関しては、「いろいろな民族の音楽上の趣味を正当に評価し、各国様式の混合」を目指した。ザクセンがプロテスタントとなった時も、場所や場面を違えて同居させていた。  
嶋外がみた宮廷舞踏会は簡略化がみられ、王室は祝祭維持の熱意が薄れていた。富裕市民階層の抬頭で、市民やサロンが祝祭や舞踏を支えはじめていた、社会関係の変化は人間関係のありかたも変える。

## ポロネーズの変遷

- ・クセ強めのポーランド民俗音楽の集合体⇒
- ・ザクセン宮廷のイタリア楽人 (当時最先端様式)・ドイツ楽人がクラシック技法でオーケストラ編成⇒宮廷のステージ⇒北ヨーロッパ宮廷に拡散⇒貴族階級のホールでの舞踏会
- ・多くの器楽曲 (ポロネーズ) が 1790-1830 年代に作曲され、この時期に様式が確立してゆく ⇒ 各国で 6 8 0 人にも及ぶ作曲家によってポロネーズが発表
- ・ウェバー (C. M. Weber) のオペラの中で本来の強堅な強さを取り戻す。強烈なビートと力強い和音が、戦士の猛々しさと優しさ⇒ 市民の熱狂的支持
- ・ワルシャワ出身の C. F. ショパンによりさらに凌駕される。ポロネーズに再び現れたなんとも奇妙に相反するような二面性という特徴、雄々しい猛々しさと優しさ、輝きと悲しさを情緒性とストーリー性を持たせてピアノ作品としてまとめる ⇒
- ・ポロネーズ>はサロン文化の華となる。

参考文献

- ・『Zur Geschichte der Musik und des Theaters am Hofe Dresden』 Moritz Fürstenau  
Leipzig Edition Peters 1971
- ・『ドレスデン都市と音楽 ザクセン選帝侯ヨハン・ゲオルグ2世の時代』  
バロック音楽研究会 編東京書籍 2007年
- ・『人間と音楽の歴史 Musikgeschichte in Bildern -19世紀の舞踏』 ヴァルター・ザルメン  
音楽之友社 1993年 図版155頁
- ・『ポーランド音楽史』 田村進 雄山閣出版  
1991年
- ・『東欧を知る事典』 伊東孝之 他監修  
平凡社 1998年



## まとめ

森嶋外『文づかひ』を二つの〈ポロネーズ〉という視点から検討した。  
ザクセン宮廷舞踏会では幕開けのグランプロムナードに簡略化され、単なる儀式となった (ポロネーズ) であった。  
一方、イダ姫が自宅ピアノで激しく弾いた曲はC.F.ショパンの〈Polonaise-Fantaisie 幻想ポロネーズ〉op.61であろうと推察した。ショパンの (ポロネーズ) は相反する二面性を示しながら情緒性に優れるという特徴を有する。(幻想ポロネーズ) では絶望感と不安と哀愁である。二面性は即興性ファンタジーに見せた緻密さである。  
社会変革の中で、文化の担い手は宮廷から市民社会に移りつつあった時である。人間関係の在り方も閉ざされたままとはいかない。そのような状況下でのイダ姫の苦しみと不安は、同じく人間関係に苦しんだショパンの情緒に同調するものだった。ピアノ演奏では (ポロネーズ) は華やかさと心の葛藤をも表現する器となっていた。  
さらにショパンは矛盾と相反するものを同時に内包する手法を取った。本発表で二面性としたものである。常にみはばえせぬイダ姫が宮廷新年の舞踏会でしんがりで颯爽と立ち現れる。このギャップの間に起きたことは、イダ姫の日常にみる熟慮からは意外にも思える俊敏な決断と行動であった。その変化の一端を担ったのが「文」(手紙)の使いをした小林であった。熟慮と決断が『文づかひ』の魅力となっていた。矛盾と対立を含み込んだ〈ポロネーズ〉の特性は、同時に森嶋外『文づかひ』の一つのテーマであったのではないだろうか。

検証	情緒	と	二面性
イダ姫が弾いたピアノ曲が (Polonaise-Fantaisie) とすると、ショパンのどんな情緒をイダ姫は物おしく感じていたのか？ また、そもそも曲のタイトル (ポロネーズ) と (ファンタジー) は全く違ったジャンルであり、ショパンはこの二つを同居させて (Polonaise-Fantaisie) という造語を作った。さらに Fantaisie 即興に見せかけたタステン採り引きには、転調の緻密さ (楽譜1-9小節) 計画性がある。このような二面性はイダ姫に見られるのだろうか？	ピアノ曲の情緒 (Polonaise-Fantaisie) op.61 の情緒 耐え難い不安と絶望感そして哀愁 ・自身の健康の悪化の一途 ・恩人・友人・父を立て続けに失う ・ジョルジュサントとの別れは決定的	「空想の曲」の説明文 若しみや恋しみが鬱積して、それを人に伝えられない せまき胸の中に閉じ込められて 一人ひとりに怒みを訴えて 泣く鬼 頼みなき 怒み語声挙げて泣く	イダ姫と二面性 「物おしき言ひぬ人」(「部には見栄えさきりき」と小林はみえていた。しかしイダ姫の腹内に思える行動が『文づかひ』の魅力となる。つまりイダ姫の二面性とは、舞臺の内外にも思える俊敏な決断と行動である。 ・ピアノ演奏の最終楽節で突然中断し、立ち去る ・イダが年少のころ、大層の孤児の男の子を助ける ・小林をゼラミットの店に牽引して欲しい、故郷への手紙を直す ・宮廷の宮女としてさっそうと現れる その結果、王室のしんがりになんか気取く豊かに歩するイダ姫を認め、小林は(い)き目で見舞うしげにイダを探る。そして、かつての「部には見栄えさきりき」はさっそうと気高くさきゆく。
「空想の曲」の説明文では、イダ姫がピアノを弾いている状況と曲の情緒が混り合った表記になっており、単純に対比は出来ない。しかし、イダ姫の苦しみとショパンの情緒に同調していることとみることは可能であろう。イダ姫自身が「煩悩の閑路」と称した苦しみとは、貴族の子にうまれても「我も人なり」との理解と「忌まわしき門閥、血統、迷信」は土塊とみやぶっていたことである。「血の権の質は人の権なり」への反発である。	イダ姫と二面性 矛盾や相反のことが共存する二面性は重要な点とも思われる。多様性の視点も思われる。		